

学校名：長崎市立橋中学校

校長名：松添 昇

所在地：長崎県長崎市かき道4丁目1番1号

電話番号：095-838-3050

I 実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

長崎市の東部に位置する本校は、昭和62年に開校し、今年24年目を迎える大規模校である。校区は、矢上団地を抱える橋地区と古い伝統のある漁港を持つ戸石・牧島地区とがあり、長崎伝統のペーロン大会を全校で行っている。また、学習・学校行事・生徒会活動に積極的に取り組む生徒が多く、部活動も盛んで、約86%の生徒が日々活動している。

2 学校の概要

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
学級数	5	5	6	1	17	
生徒数	男	74	105	111	1	291
	女	83	85	96	1	265
	計	157	190	207	2	556

教員数 33名（保健体育科 5名）

領域：武道 領域の内容：1年剣道（男女全員）

2・3年柔道（男子）

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間数	11	12	12		34	
担当教員数	2	2	2		6	
(地域指導者)	1	0	0	0	1	
生徒数	男	74	105	111	1	291
	女	83	0	0	1	84
	計	157	105	111	2	375

II 授業事例及び今後の展望

【本事業の成果の要点】

- ・地域連携指導推進協力者会議で大学教授や剣道協会、市教育委員会、他校の取組など多方面から指導・助言をいただき、指導体制や単元計画づくり、指導法の改善などについて大変参考になった。
- ・本校は大規模校で教頭を含む5人の保健体育教員がいるが、本事業に取り組むことによって保健体育部会を中心に武道（剣道）に取り組む体制づくりと意識の向上を図ることができた。
- ・地域指導者と連携することによって、担当教師（剣道専門）がさらに幅広い知識と工夫した指導法を身に付け、より充実した授業を展開することができた。

1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

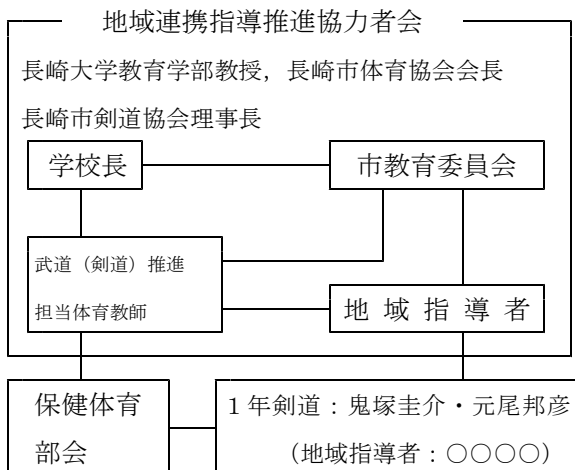
地域指導者と連携して、初心者が意欲的に取り組む剣道指導のあり方

(2) 研究テーマ設定のねらい

本校では平成24年度からの武道必修化に向けて、今年度より初めて剣道を取り入れ、3年間を通して段階的に各学年で剣道に取り組めるように計画することにした。また、初年度である今年は学校選択として、1年男女全員が剣道を履修することとした。

そこで、剣道経験が全くなく（剣道経験者の14名を除く）初めて剣道を体験する生徒が、安全に抵抗なく授業を受け、意欲的に活動するためには、剣道の専門的指導力を持つ地域の指導者と連携して授業を行い、効果的な指導を行うこと、また担当教師の資質や指導力の向上を図ることをねらいとした。

(3) 取組体制



(4) 本事業における主な取組

平成22年度	7/15	地域連携指導推進協力者会議 (第1回)
	8/30	保健体育部会 (剣道実施に向けて校内推進計画)
	9/10	地域連携指導推進協力者会議 (第2回)
	9/14	保健体育部会 (剣道単元計画，単元構造図作成)
	11/25	地域指導者との打ち合わせ①
	12/ 7	地域指導者との打ち合わせ②
	12/14	地域指導者との打ち合わせ③
	12/20	地域指導者との打ち合わせ④
	12/22	地域指導者との打ち合わせ⑤
	1/13	地域指導者との打ち合わせ⑥
	1/14	地域指導者との打ち合わせ⑦
	1/17	地域指導者との打ち合わせ⑧
	1/18	地域指導者との打ち合わせ⑨
	1/20	地域指導者との打ち合わせ⑩
	1/25	地域指導者との打ち合わせ⑪
	1/26	長崎市中学校剣道合同講習会
	2/18	地域連携指導推進協力者会議 (第3回)

2 授業事例

(1) 武道（剣道）

① 目的

相手の動きに応じた基本動作（面の打ち方と受け方）を習得し，判定試合を楽しむ。

② 具体的な指導方法

ア 武道の雰囲気をつくるため，笛ではなく拍子木や和太鼓を使用する。また，指導者も剣道着，袴を着用する。



拍子木



和太鼓

イ 竹刀を正しく握るために，竹刀のつかにVマークを書き，人差し指と親指の握り方の目安とさせる。

ウ 竹刀の物打ち部分をより明確にするために，教師用の竹刀の物打ち部分に赤テープをはって示範する。



竹刀のつかのVマーク



物打ち部分の赤テープ

エ 体づくりの運動（手のひら突き，竹刀ボール打ち）で攻防の感覚や楽しく竹刀で物（ボールなど）打突する感覚をつかませる。

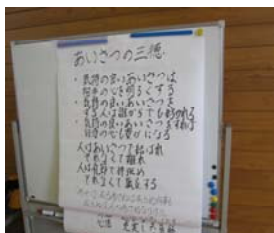


手のひらつき



竹刀ボール打ち

オ 礼法・所作についての意味を説明し、方法を示範する。



あいさつの三徳



座 礼



胴のつけ方



小手の置き方

ケ 地域指導者が面の打ち方、打たせ方を示範する。

カ 竹刀について、模擬刀や木刀を使って説明し、理解を深めさせる。



竹刀についての説明



竹刀・木刀・模擬刀
を使つての説明



面の打ち方

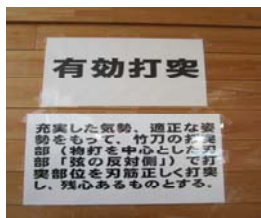


面の打たせ方

コ さまざまな方法で正面素振りを行わせ、見て、感じてアドバイスしながら学ばせる。

- ・「指導者が前で一斉に」
- ・「2人組でお互い同時に」
- ・「2人組で片方が見てアドバイスする」

キ 有効打突について説明し、理解を深めさせる。



有効打突の定義を掲示



竹刀で打突部(面)を
刃筋正しく打つ説明

サ 基本的に3人1組で活動させ、それぞれ次の役割を果たすように指導する。

- ・面を打つ。
- ・面を竹刀で受ける。
- ・2人の活動を見て、アドバイスし、判定試合では審判を務める。

(時として、審判3人の5人組で活動)

ク 正しい防具の着脱と防具の置き方を理解させる。



胴・垂れの置き方



垂れのつけ方



面を竹刀で受ける判定試合



試合後の審判員からの
アドバイス

シ 判定試合では「礼に始まり、礼に終わる」礼法と所作を確実に行わせる。



立 礼



帯 刀



蹲 踞



中段の構え

ス ルールや約束事項を守り正々堂々と勝負する中で、試合を楽しみ相手を尊重する態度を身に付けさせる。

セ 活動後は、学習カードを用いて活動の評価や反省を行い、次時への意欲を高めさせる。

③ 成果・課題

地域指導者から、剣道の技を示範解説してもらったり、剣道の歴史や礼法や所作、竹刀なども意味付けて指導していただいた。また、担当教師（剣道専門）と毎時間打ち合わせを行い指導案を練り上げ、指導方法の工夫ができた。（武道の雰囲気づくり、道具の工夫、体づくり運動の効果的な活用、2人組や3人組及び5人組で教え合って学習する方法、技の習得段階に応じて工夫した判定試合など）

結果として、生徒たちが意欲的に取り組む活発的な授業が展開できた。しかし、終了後の反省で「剣道は難しい」と感じた生徒も少なくはなかった。

生徒たちが、段階的に技能の習得を図れる指導の場の工夫と、小手・面・胴の打突

部を防具の上から打突されても痛くない理にかなった打突の指導が必要であったのではと思う。また、1年間で10～12時間の単元の工夫が課題であることも十分理解できた。

【剣道授業事前アンケート】 回答数78/78 (人)

		ある	ない	
・剣道の試合や稽古を見たことがありますか。		34	44	
・剣道をしたことがありますか。		7	71	
・剣道・柔道・相撲のどれが好きですか。		剣道 47	柔道 28	相撲 3
1, 剣道に興味がありますか。		27	51	
2, 剣道は日本の伝統的なものという感覚（イメージ）がありますか。		58	20	
3, 剣道は礼儀正しいという感覚（イメージ）がありますか。		77	1	
4, 中学校の保健体育科の授業で剣道をやりたいと思いますか。				
とてもやり たい	少しやって みたい	どちらでも ない	あまりやり たくない	全くやり たくない
7	34	29	6	2
5, 剣道の授業でやってみたい事は何ですか。 (あてはまるものにいくつでも○をつける)				
剣道着・袴を 着てみたい	礼儀作法を学び たい	剣道防具をつけ てみたい	竹刀で打ってみ たい	
19	25	12	40	
剣道の技を学 びたい	試合をしてみた い	剣道の歴史を学 びたい	その他	
25	21	10	0	
6, 4で「あまりやりたくない」「全くやりたくない」と答えた人で、剣道の授業をやりたくない理由は何ですか。 (あてはまるものにいくつでも○をつける)				
痛そうだ	かっこ悪い	こわそうだ	臭そうだ	
8	0	7	3	
剣道防具を着 けるのが嫌だ	おもしろくな さそうだ	むずかしそう だ	試合をしたくな い	
1	0	6	0	

【剣道授業事後アンケート】 回答数 78 / 78 (人)

1, 剣道に対する興味が高まりましたか。			
大変高まった	少し高まった	あまり高まらなかった	全く高まらなかった
37	39	2	0
2, 剣道は日本の伝統的なものという感覚(イメージ)が高まりましたか。			
大変高まった	少し高まった	あまり高まらなかった	全く高まらなかった
54	21	3	0
3, 剣道は礼儀正しいという感覚(イメージ)が高まりましたか。			
大変高まった	少し高まった	あまり高まらなかった	全く高まらなかった
69	8	1	0
4, また中学校の保健体育の授業で剣道をやりたいと思いますか。			
とてもやりたい	少しやってみたい	あまりやりたくない	全くやりたくない
25	48	4	1
5, 剣道の授業をやってみて、楽しかった事、うれしかった事は何ですか。(あてはまるものにいくつでも○をつける)			
礼儀作法を学んだ事	剣道防具をつけた事	竹刀で打った事	剣道の技を学んだ事
44	44	53	39
試合(簡易試合)をした事	剣道の歴史を学んだ事	その他(声が出てほめられた。自分に自信がついた。すり足ができるようになった。)	
33	20	7	
6, 剣道の授業をやってみて、嫌だった事、やりたくなくなった事は何か。(あてはまるものにいくつでも○をつける)			
痛かった	かっこ悪かった	こわかった	臭かった
19	3	5	1
剣道防具を着けるのが嫌だった	おもしろくなかった	むずかしかった	試合で負けた
6	3	42	11
その他(防具が重かった。声を出すのがつらかった。正座で足が痛かった。)			
8			

<事前・事後アンケート結果より>

- 剣道への興味が高まった・少し高まった
49人増(62,8%増)
- 剣道は日本の伝統的なものという感覚(イメージ)が高まった・少し高まった
17人増(21,8%増)
- また剣道をやりたい・少しやってみたい
32人増(41%増)
- 楽しかったこと、うれしかったこと
 - ・竹刀で打ったこと (13人増)
 - ・礼儀作法を学んだこと (19人増)
 - ・剣道防具をつけたこと (32人増)
 - ・剣道の技を学んだこと (14人増)
 - ・試合を楽しんだこと (12人増)
 - ・剣道の歴史を学んだこと (12人増)
- 嫌だったこと、やりたくなかったこと
 - ・剣道はむずかしかった (42人:53,8%)
 - ・痛かった (11人増:14%増)

<生徒感想・反省①>

剣道の授業を受けて心を清めることができた。野球部の活動も剣道を始めてもっと真剣になれた。楽しい反面、きびしいという授業だったのですごくいいと思った。たくさん剣道のことを知ることができて良かった。正直、剣道部に入りたいと思った。それと地域の方が先生となって授業をしてくれたことがとても良かった。また、自分に自信をつけることもできたからうれしかった。この授業があったことに感謝します。

<生徒感想・反省②>

私は、今回初めて剣道をした。最初、剣道のイメージは、棒を振って人と戦うだけだと思っていたが、実際にやってみると、私が思っていた以上に剣道は奥が深く、とてもむずかしかった。また、礼儀をととても大切にされていて、すごいなと思った。竹刀は意外と重かった。

最後にやったテストはとても緊張したが、とても楽しかった。せっかく、礼儀や面・小手・胴打ちを覚えられたので、もっとやりたかった。2年生になって、また体育でやれたら嬉しい。それまで忘れないようにしたい。

<生徒感想・反省③>

最初は剣道の仕方がわからず、剣道をしていたお父さんに「これって、これでいいとよね。」と聞いたり、お父さんとペットボトルを使って剣道の勝負をしたりした。とても剣道に興味を持って本当に良かった。

一番心に残ったことが富永先生が教えてくれたあいさつの三徳である。あいさつをすれば友達が増えるという所が好きだった。僕の持ち味は声を出すことである。剣道を通じて身も心も成長できたので良かった。

《地域指導者；〇〇先生の感想・反省》

生徒たちの熱心な授業態度に接し、地域指導者として感心しました。これも担当の先生の熱心な指導とともに、日頃の生徒に対する先生方の指導の賜物と思います。服装の乱れがないことも、気持ちの良いものでした。授業時間は10時間と少なく、剣道をどのような方法で、どの程度指導すればよいか難しい面もありましたが、担当の先生と検討しながら進めることで、初期の目的が達成できたと思います。

反省点としていくつかあげてみますと、
○礼法について（正座の仕方・立ち方・礼の仕方など）もう少し時間があると良いと感じました。

○剣道の文化について話をする時間がもう少し確保できたらと思いました。

○防具の装着を大半の人がうまくできないことに驚きました。紐の結び方について

家で学習させる必要があると感じました。

最後に、合同講習会で他校の剣道二年目の授業を参観して、二年目になると一段と成長した姿が見れると確信しました。今回、大変良い経験をさせていただき誠にありがとうございました。

3 今後の展望

授業に入る前は、剣道に興味がある生徒は少なく、剣道をやりたいと思っている生徒は約半数であった。しかし、授業後、「また剣道をやりたい」と答えた生徒は90%以上にも上り、著しい高まりが見られた。これは専門的な知識と技術指導に長けた地域指導者と連携して授業を行った成果がそのまま反映していると考えられる。初心者である生徒が剣道の本質に触れ、剣道を学ぶ楽しさを感じたということは、指導する側にとっても大変喜ばしいことである。また、担当した教員として、地域指導者と連携することにより、指導法の新たな発見や工夫を見出すことができ大変勉強になった。

今後も、今回のような地域指導者と連携して授業を行うシステムや学校の実態に応じた指導が可能な地域指導者の確保を国・県・市レベルで構築し継続していくことが必要ではないかと思う。また、剣道防具を購入する予算を市や学校で確保したり、必要に応じては使用回数と値段を考慮して防具の個人購入も考えていかなければならないのではと思うが、限られた道具・防具でも、剣道の真髄に触れ教育的効果を上げる指導法の工夫を行うことにより、さらに剣道授業の充実が図れると考えられる。

今年度から本校でも初めて剣道を取り入れたが、保健体育科の教員が剣道を指導する体制を継続していくためにも、剣道推進の核となる教員の養成が必要であり、剣道指導力の向上を図るための講習会や教員自らが剣道の教材研究を深めることは必須条件であると考えられる。